

SYLLABUS

シ ラ バ ス

令和8年度後期

作業療法士科 2年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

作業療法士科 教育課程（令和8年度後期）

2年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
心理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅱ	1	30	1	後期
倫理学	2	30	1	前期	身体障害評価学Ⅲ	1	30	2	前期
物理学	1	15	1	前期	精神障害評価学Ⅰ	1	30	2	前期
生物学	2	30	1	前期	精神障害評価学Ⅱ	1	30	2	前期
医学英語	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
保健体育	1	30	1	前期	身体障害治療学Ⅱ	1	30	2	前期
情報処理演習	1	15	1	前期	身体障害治療学Ⅲ	1	30	2	前期
人間関係論	2	30	1	前期	身体障害治療学Ⅳ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	1	後期	身体障害治療学Ⅴ	1	30	2	後期
キャリア教育Ⅱ	1	15	3	前期	身体障害治療学Ⅵ	1	30	2	後期
解剖学Ⅰ	2	60	1	前期	身体障害治療学Ⅶ	1	30	2	後期
解剖学Ⅱ	2	60	1	後期	身体障害治療学演習Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅰ	1	15	1	前期	身体障害治療学演習Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅱ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
解剖学演習Ⅲ	1	15	1	前期	精神障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
解剖学演習Ⅳ	1	30	1	後期	精神障害治療学Ⅲ	1	30	2	後期
生理学Ⅰ	1	30	1	前期	発達障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
生理学Ⅱ	1	30	1	後期	発達障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
生理学Ⅲ	1	30	1	後期	高次脳機能障害治療学	1	30	2	後期
生理学演習	1	30	1	後期	日常生活活動	1	30	2	前期
運動学	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅰ	1	30	2	前期
運動学演習Ⅰ	1	30	1	前期	老年期障害治療学Ⅱ	1	30	2	後期
運動学演習Ⅱ	1	30	1	後期	義肢装具学	1	30	2	後期
人間発達学	1	30	1	後期	福祉用具学	1	15	1	後期
内科学Ⅰ	1	30	1	後期	作業療法臨床技能演習	1	30	2	後期
内科学Ⅱ	1	30	2	前期	生活環境学	1	15	2	後期
臨床心理学	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅰ	1	30	2	後期
精神医学Ⅰ	1	30	1	後期	地域作業療法学Ⅱ	1	30	2	後期
精神医学Ⅱ	1	30	2	前期	職業関連活動	1	30	2	後期
整形外科Ⅰ	1	30	1	後期	見学実習	1	45	1	後期
整形外科Ⅱ	1	30	2	前期	観察実習	1	45	2	前期
一般臨床医学Ⅰ	1	15	2	前期	臨床評価実習	3	135	2	後期
一般臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	臨床実習Ⅰ	9	405	3	前期
神経内科学	1	30	2	前期	臨床実習Ⅱ	9	405	3	後期
病理学概論	1	30	1	後期	地域実習	1	45	3	前期
小児科学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅰ	1	30	1	前期
臨床栄養学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅱ	1	30	1	後期
臨床薬学	1	15	2	前期	作業療法特論Ⅲ	1	30	2	前期
リハビリテーション概論	1	30	1	前期	作業療法特論Ⅳ	1	15	2	後期
リハビリテーション医学	1	15	1	前期	総合作業療法学演習Ⅰ	3	90	3	前期
社会福祉学	1	30	1	前期	総合作業療法学演習Ⅱ	3	90	3	後期
地域ケア論	1	15	2	前期					
作業療法概論Ⅰ	1	30	1	前期	パラスポーツ特論(選択科目)	1	15	3	後期
作業療法概論Ⅱ	1	15	3	後期					
基礎作業学	1	30	1	後期					
基礎作業学演習Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎作業学演習Ⅱ	1	30	1	後期					
作業療法管理学Ⅰ	1	15	2	前期					
作業療法管理学Ⅱ	1	15	2	後期					
身体障害評価学Ⅰ	1	30	1	後期					

科目名		授業形態	担当教員名	
一般臨床医学Ⅱ		講義	岩井 克磨・末安 朋雄・遠藤 宏和 山寄 統子・嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この科目では、診断や評価で重要となる画像診断の基礎と専門的な治療（酸素療法・人工透析）について学ぶ。 また、リハビリテーションと関連する産婦人科や皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科などの疾患について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. X線撮影、CT撮影、MRI撮影、超音波、血管造影について説明できる。 2. 酸素療法、人工透析について説明できる。 3. 眼疾患、視覚障害について説明できる。 4. 産婦人科、皮膚科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、症状、治療法を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	レントゲンとCTの基礎【岩井】			
2	MRIの基礎【末安】			
3	画像診断のまとめと解説【末安】			
4	酸素療法について【遠藤】			
5	人工透析について【遠藤】			
6	眼疾患、視覚障害について【山寄】			
7	婦人科・産科疾患【嘉納】			
8	皮膚科疾患、耳鼻咽喉科疾患【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	講義内容についての自己学習で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
PTOTST標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価		宮越浩一 編	医学書院	
PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版		明石謙 編集	医歯薬出版	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法管理学Ⅱ		講義	嘉納 綾・岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
保健・医療・福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)を理解し、作業療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。				
授業の到達目標				
1. 理学療法士及び作業療法士法について説明できる。		5. 障害者の就労支援に関係する制度について説明できる。		
2. 作業療法士の職業倫理・研究倫理について説明できる。		6. 教育目標分類の3領域について説明できる。		
3. 医療保険制度、介護保険制度について説明できる。		7. 作業療法臨床実習で求められる学生の資質を列挙できる。		
4. 地域包括ケアシステムについて説明できる。		8. 日本作業療法士協会の生涯学修制度について説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	作業療法の役割と職域【嘉納】			
2	作業療法の職業倫理【嘉納】			
3	医療保険制度【嘉納】			
4	介護保険制度、地域包括ケアシステム【岡田】			
5	障害者福祉制度、就労支援、就学支援【嘉納】			
6	教育学―作業療法教育―【嘉納】			
7	作業療法臨床実習の理解と管理体制【嘉納】			
8	作業療法士のキャリア開発【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト	100%			
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を行う。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
作業療法管理学 第3版		大庭潤平 編	医歯薬出版	
標準作業療法学 作業療法概論 第4版		能登真一 編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅳ		講義	井上 直樹・藤井 一真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
脳腫瘍、重症筋無力症、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、脊髄小脳変性症、パーキンソン病の特徴、機序、症状、予後、作業療法評価・プログラムについて学ぶ。 ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1.各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2.各疾患で行われる評価を列挙できる。 3.各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4.各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5.ケーススタディを通して、統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	脳腫瘍：病態生理【藤井】			
2	脳腫瘍：作業療法プログラム【藤井】			
3	パーキンソン病：病態生理【藤井】			
4	パーキンソン病：作業療法プログラム【藤井】			
5	パーキンソン病：ケーススタディ【井上】			
6	重症筋無力症：病態生理【井上】			
7	重症筋無力症：作業療法プログラム【井上】			
8	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎：病態生理【井上】			
9	全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎：作業療法プログラム【井上】			
10	脊髄小脳変性症：病態生理【井上】			
11	脊髄小脳変性症：生活の実際を知る【井上】			
12	脊髄小脳変性症：作業療法プログラム【井上】			
13	ケーススタディ：情報の整理【井上】			
14	ケーススタディ：問題点の列挙【井上】			
15	ケーススタディ：統合と解釈【井上】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	ケーススタディでレポートを作成する。評価基準は別途示す。		
レポート・課題	30%			
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験の割合を100％として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
脳神経疾患ビジュアルブック		落合慈之 編	学研メディカル秀潤社	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版		能登真一 他編	医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 第6版		川平和美 編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
授業内容や順序は変更することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅴ		講義・演習	嘉納 綾・久保 周平 藤井 一真・山田 陽子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
整形疾患の中で骨折、上肢の末梢神経障害、腱損傷、加齢性関節疾患の特徴と作業療法について学ぶ。 ケーススタディを通して知識の総括と臨床的思考の練習を行う。				
授業の到達目標				
1.各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2.各疾患の評価を列挙できる。 3.各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4.各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5.ケーススタディを通して、統合と解釈、問題点の列挙、目標の立案、プログラムの立案ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	大腿骨頸部骨折：概要【藤井】			
2	大腿骨頸部骨折：作業療法プログラム【藤井】			
3	骨折（肩～手）：上肢骨折に対するセラピィの基礎【山田】			
4	骨折（肩～手）：各骨折部位別の治療【山田】			
5	腱板損傷：概要【山田】			
6	腱板損傷：治療【山田】			
7	上肢末梢神経麻痺について【久保】			
8	上肢の末梢神経麻痺の作業療法【久保】			
9	手指腱損傷の作業療法【久保】			
10	加齢性関節疾患【嘉納】			
11	腰部脊柱管狭窄症・腰痛症【嘉納】			
12	ケーススタディ：事例①アセスメント【嘉納】			
13	ケーススタディ：事例①治療プログラムの立案【嘉納】			
14	ケーススタディ：事例①経過～考察【嘉納】			
15	ケーススタディ：事例②【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%			
レポート・課題	30%	ケーススタディで作成したレポートで評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト	20%	久保講師の講義で行う。		
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100％として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 整形外科学 第5版		立野勝彦	医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版		能登真一	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅵ		講義・演習	山本 翔太・井上 直樹 大永 寛・山田 陽子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
整形疾患の中で頸髄症、脊髄損傷の特徴と作業療法について学ぶ。 講義の9回、10回と13回、14回は2回にわけて実際に脊髄損傷の方に来校していただき、グループに分かれて評価と統合と解釈を行う。 また個人でレポート作成を行う。				
授業の到達目標				
1.各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2.各疾患の評価を列举できる。 3.各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4.各疾患に対する作業療法について説明ができる。 5.実際の脊髄損傷の方をケースとして、評価、統合と解釈を行うことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	頸髄症：病態生理【山田】			
2	頸髄症：作業療法プログラム【山田】			
3	脊髄損傷（講義）：病態生理			
4	脊髄損傷（講義）：ADLと作業療法プログラム			
5	脊髄損傷（評価準備）：ボトムアップ的視点からの評価項目列举			
6	脊髄損傷（評価準備）：トップダウン的視点からの評価項目列举			
7	脊髄損傷（評価準備）：計画書の作成			
8	脊髄損傷（評価準備）：実技練習およびリハーサル			
9	脊髄損傷（評価演習）：当事者の方の作業療法評価			
10	脊髄損傷（評価演習）：当事者の方の作業療法評価			
11	脊髄損傷（評価準備）：9回10回の振り返り			
12	脊髄損傷（評価準備）：13回14回の評価に向けての行動計画立案			
13	脊髄損傷（評価演習）：当事者の方の追加評価			
14	脊髄損傷（評価演習）：当事者の方の追加評価			
15	脊髄損傷（まとめ）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	30%	脊髄損傷のケースレポートを各自作成する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版		能登真一 他編	医学書院	
新版 日常生活活動（ADL）第2版 評価と支援の実際		伊藤利之 他編	医歯薬出版	
標準理学療法学・作業療法学 整形外科学 第5版		奈良勲 他監修	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				
講義の順序や内容に変更する場合がある。その場合は書面または口頭にて通知する。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学Ⅶ		講義	嘉納 綾・山本 翔太・山本 浩介	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
内部疾患の対象者に作業療法を実施できるようになるために、各疾患の病態および作業療法の評価と治療・指導・援助方法について学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 各疾患の概要（特徴、機序、症状、予後）について説明ができる。 2. 各疾患の評価を列挙できる。 3. 各疾患で行われる代表的な評価を一部実施できる。 4. 各疾患に対する作業療法について説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	心電図【山本翔太】			
2	主な心疾患の復習【山本翔太】			
3	心疾患の作業療法評価【山本翔太】			
4	心疾患の作業療法介入【山本翔太】			
5	主な呼吸器疾患の復習【山本翔太】			
6	呼吸器疾患の作業療法評価【山本翔太】			
7	呼吸器疾患の作業療法介入【山本翔太】			
8	糖尿病【嘉納】			
9	腎疾患【嘉納】			
10	悪性腫瘍【山本浩介】			
11	ターミナルケア【山本浩介】			
12	乳がん【嘉納】			
13	聴覚障害【嘉納】			
14	摂食嚥下について、摂食嚥下機能の評価【嘉納】			
15	摂食嚥下障害のリハビリテーション【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第5版		前田眞治 編	医学書院	
標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版		能登真一 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
身体障害治療学演習Ⅱ		演習・講義	岡田 誠暁・中田 修・宮下 悠紀 福林 秀幸・中村 由果理	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
身体障害領域（主に整形外科疾患等）における作業療法の治療原理と実務的技術を修得する。多職種（理学療法士・作業療法士・看護師）による専門的講義と演習を通じ、廃用症候群へのアプローチ、感覚・知覚再教育、自助具制作、スプリント作製、吸引法、物理療法に関する基礎知識を深め、臨床現場で実践できる確実な技術の獲得を目指す。				
授業の到達目標				
1. 各作業療法プログラムの意義、目的、方法について説明ができる。 2. 自助具作成を行うことができる。 3. スプリント作成を行うことができる。			4. 吸引の仕方を説明できる。 5. 物理療法について説明できる。	
授業計画				
回	内容			
1	廃用症候群とその対応			
2	廃用症候群とその対応			
3	感覚・知覚再教育【中田】			
4	感覚・知覚再教育【中田】			
5	自助具作成			
6	自助具作成			
7	スプリント療法の概要【宮下】			
8	スプリントの製作（背側カックアップスプリント①）【宮下】			
9	スプリントの製作（背側カックアップスプリント②）【宮下】			
10	スプリントの製作（短対立スプリント①）【宮下】			
11	スプリントの製作（短対立スプリント②）【宮下】			
12	スプリントの製作（ジョイントジャックスプリント）【宮下】			
13	吸引法【中村】			
14	物理療法【福林】			
15	物理療法【福林】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	授業の理解度で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	50%	自助具、スプリント作成の結果で評価を行う。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験100％で成績判定を行う。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学Ⅱ		講義・演習	淡路 大致	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神障害治療学Ⅰや精神障害評価学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識・経験をもとに、統合失調症や気分障害といった精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 精神障害領域で行われている治療について列挙できる。 2. それぞれの治療内容・留意点などを説明できる。 3. 精神障害作業療法プログラムを立案し、作業療法士としての対応方法や実施上の留意点を説明できる。 4. 活動を分析し、患者の特性に合わせた使い分けについて説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	作業の治療的応用			
2	作業の治療的応用			
3	認知行動療法			
4	認知行動療法			
5	認知行動療法			
6	曝露療法			
7	疾病・心理教育			
8	SST			
9	認知機能リハビリテーション（MCT・NEAR・SCIT）			
10	認知機能リハビリテーション（MCT・NEAR・SCIT）			
11	認知機能リハビリテーション（運動系）			
12	認知機能リハビリテーション（運動系）			
13	作業の特性の理解と対象者の状態に合わせた作業の選択			
14	作業の特性の理解と対象者の状態に合わせた作業の選択			
15	感覚統合療法			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	授業の到達目標で評価する		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版		朝田隆	中央法規	
精神障害と作業療法 新版		山根寛	三輪書店	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
生活を支援する 精神障害作業療法 急性期から地域実践まで 第2版		香山明美・小林正義 他	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
精神障害治療学Ⅲ		演習・講義	濱崎 光弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
精神障害治療学Ⅰ・Ⅱ、精神障害評価学Ⅰ・Ⅱで得た知識をふまえ、精神障害領域の評価や治療技法について演習を通じて学び、実際に当事者との関わりのなかから作業療法の一連の流れを経験する。				
授業の到達目標				
1. 当事者の生活上の困りごとを聴取し寄り添うことができる。 2. 当事者の全体像をまとめ、統合と解釈ができる。 3. 当事者の望む生活に合わせた作業療法を立案できる。 4. 精神障害作業療法の一連の流れを説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	当事者評価計画			
2	当事者評価計画			
3	当事者評価			
4	当事者評価			
5	当事者評価振り返り			
6	当事者評価計画			
7	当事者評価			
8	当事者評価			
9	当事者評価振り返り			
10	当事者評価計画			
11	当事者評価			
12	当事者評価			
13	当事者情報の列挙・整理・解釈			
14	当事者情報の統合と解釈・目標設定・作業療法立案			
15	発表・質疑応答			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	70%	当事者に関するレポートで評価する 評価基準は別途示す		
小テスト				
その他	30%	グループワークの参加への主体性や貢献度で評価する 評価基準は別途示す		
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
精神障害と作業療法 新版		山根寛	三輪書店	
精神疾患の理解と精神科作業療法 第2版		朝田隆	中央法規	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
発達障害治療学Ⅱ		講義・演習	笹井 久嗣	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
発達障害領域の各種疾患、障害に対する作業療法について理解することを目的とする。 具体的には障害を持った子どもさんのビデオ分析をしたり、実際に来て頂き、評価・治療の経験をする。				
授業の到達目標				
1. 発達障害領域の各疾患・障害に対する作業療法評価と治療について説明できる。 2. ビデオや検査結果から対象児の全体像を考えることができる。 3. 全体像から導き出される具体的な作業療法介入を考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	発達障害治療学Ⅱの進め方・評価計画立案			
2	評価計画立案(Aくん)			
3	評価演習(Aくん)			
4	評価演習(Aくん)			
5	評価の振り返り及び治療計画立案(Aくん)			
6	治療計画(Aくん)			
7	治療演習(Aくん)			
8	治療演習(Aくん)			
9	治療の振り返り治療演習(Aくん)			
10	評価計画(Bくん)			
11	評価演習(Bくん)			
12	評価演習(Bくん)			
13	当事者からのお話			
14	当事者からのお話			
15	発達障害治療学Ⅱまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	評価計画・実施、治療プログラム立案・実施にかけてのレポートの完成度により評価 評価基準は別途示す		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	再試験は実施しない			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

令和8年度シラバス

作業療法士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
高次脳機能障害治療学		講義・演習	中田 修	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
血管障害や頭部外傷など、脳の病変や損傷によって引き起こされる高次脳機能障害は、さまざまなADLの阻害要因となることが知られており、作業療法目標の設定や治療計画立案時に考慮すべき重要な要素の一つである。この授業では作業療法士として臨床に必要な知識である高次脳機能障害の定義、症状と発現メカニズム、症状および障害の見方とその評価および具体的な治療方法を学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 高次脳機能障害の各症状の定義を説明することができる。 2. 高次脳機能障害の各症状の発現メカニズムを説明することができる。 3. 作業療法における高次脳機能障害の障害別評価方法を実践することができる。 4. 高次脳機能障害に対する作業療法介入を症状別に説明することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高次脳機能障害の概略			
2	意識と注意の障害			
3	失語症とコミュニケーション障害			
4	失行とその評価			
5	失認とその評価			
6	記憶障害とその評価			
7	前頭葉損傷			
8	高次脳機能障害における作業療法評価 1			
9	高次脳機能障害における作業療法評価 2			
10	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践 1			
11	高次脳機能障害の簡易評価バッテリー実践 2			
12	高次脳機能障害の評価バッテリーの解釈			
13	高次脳機能障害に対する作業療法介入 1			
14	高次脳機能障害に対する作業療法介入 2			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	上記の授業の到達目標がどの程度達成できたかで評価する		
レポート・課題				
小テスト	10%	1～4回目の内容に対しておよび5～7回目の内容に対して各1回実施する 評価基準は別途示す		
その他	10%	後半の簡易バッテリーの実践で行う小グループでの発表会の内容で評価する 評価基準は別途示す		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
作業療法全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害		渕雅子 編集	協同医書出版社	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
老年期障害治療学Ⅱ		演習・講義	岡田 誠暁	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
老年期障害治療学Ⅰの授業で基礎的な知識を学んだうえで、実際の関わり方、作業療法の評価、援助方法についてグループ演習を通して学ぶ。実技を通して障害を有する高齢者への援助技術を習得する。				
授業の到達目標				
1. 高齢者への基本的なかかわり方を実践できる。 2. 老年期作業療法における評価項目をあげ、実践できる。 3. 上記の評価から問題点の焦点化ができる。 4. 老年期作業療法を企画・立案できる。 5. 対象者への介入方法を実践、説明ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	高齢者の評価 計画と内容			
2	高齢者の評価 実際			
3	高齢者の起居・移乗動作の介助方法			
4	高齢者の姿勢の特徴と対応 良肢位保持			
5	高齢者の姿勢の特徴と対応 車いす調整 シーティング ①			
6	高齢者の姿勢の特徴と対応 車いす調整 シーティング ②			
7	介入事例 ADL・IADL 役割			
8	介入事例 近接援助技術			
9	リスク管理 ①			
10	リスク管理 ②			
11	家族と高齢者介護			
12	高齢者の在宅医療 ターミナルケア			
13	介護保険制度 地域連携			
14	権利擁護 成年後見制度 その他			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	85%	上記の授業内容に準じて試験で評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	15%	グループワークでの課題や実技演習時の取り組みによって評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験100%で成績判定を行う。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
最新リハビリテーション基礎講座 老年学		荒井秀典・山田実	医歯薬出版	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 老年学 第5版		大内尉義	医学書院	
老年期の作業療法 改訂第3版		浅海奈津美・守口恭子	三輪書店	
自由記載				
備考				
授業の予定は前後変更する可能性がある。変更の場合は随時通知をする。 実技を行うため、動きやすい服装で参加すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
義肢装具学		講義	大庭 潤平・嘉納 綾 鯨島 一雄・谷 和真	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
義手・義足・装具は作業療法にとって重要な分野であり、その知識と技術は患者、障害者の障害を軽減することに役立つ大切な手段である。そのため義肢装具は障害者の機能および形態の代償・補填に重要な役割を持っている。 義肢装具に関する基礎知識を身につけ、各種疾患・障害に対する義肢装具の重要性を理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 義手の種類・機能・適応を説明できる。 2. 義手のチェックアウト項目を説明できる。 3. 装具の種類・機能・適応を説明できる。 4. 福祉・保健制度の動向、技術革新についても理解できる。				
授業計画				
回	内容			
1	義手の総論【大庭】			
2	上肢切断と義手【大庭】			
3	義手の種類と構成部品【大庭】			
4	義手の適合範囲とその対応【大庭】			
5	義手の操作方法と指導方法【大庭】			
6	先天性上肢欠損児に対する義手適応【大庭】			
7	上肢装具総論【嘉納】			
8	上肢装具各論①関節リウマチ【嘉納】			
9	上肢装具各論②頸髄損傷【嘉納】			
10	上肢装具各論③末梢神経損傷【嘉納】			
11	上肢装具各論④熱傷【嘉納】			
12	上肢装具各論⑤その他【嘉納】			
13	下肢装具【谷】			
14	体幹装具【谷】			
15	義足【鯨島】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
義肢装具と作業療法 - 評価から実践まで -		大庭潤平 他	医歯薬出版株式会社	
標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版		山口昇 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
義肢装具のチェックポイント		日本整形外科学会	医学書院	
切断と義肢		澤村誠志	医歯薬出版株式会社	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法臨床技能演習		演習・講義	嘉納 綾・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
評価実習・長期実習を見据え、実際の患者を想定した状況で検査や面接の課題に取り組み、実践能力の向上を目指す。検査や面接技法に併せて、臨床に望ましい身なりや態度、マナーについての習得状況も確認する。				
授業の到達目標				
1. 臨床実習生として相応しい身なりと態度で模擬患者に接し、良好な関係を構築することができる。 2. 模擬患者に対して適切な動作の誘導・介助、評価を実施することができ、得られた結果を報告することができる。 3. 臨床技能や対象者への接遇などの自己の問題点を認識し、それに対する改善策を述べることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション、課題内容に基づいた実技演習（ROM:上肢）①			
2	課題内容に基づいた実技演習（ROM:上肢）②			
3	課題内容に基づいた実技演習（MMT:上肢）①			
4	課題内容に基づいた実技演習（MMT:上肢）②			
5	課題内容に基づいた実技演習（表在感覚）			
6	課題内容に基づいた実技演習（深部感覚）			
7	課題内容に基づいた実技演習（BRS:上肢）①			
8	課題内容に基づいた実技演習（BRS:上肢）②			
9	課題内容に基づいた実技演習（BRS:下肢）①			
10	課題内容に基づいた実技演習（BRS:下肢）②			
11	課題内容に基づいた実技演習（BRS:手指）			
12	課題内容に基づいた実技演習（これまでの総復習）			
13	まとめ			
14	臨床技能試験①			
15	臨床技能試験②			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	30%	定期試験にて理解度を評価する		
レポート・課題				
小テスト				
その他	70%	臨床技能試験（評価基準を含め、詳細は授業内で提示する）		
自由記載	再試験は、実技試験70% 筆記試験30%で判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
PT・OT のための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編		才藤栄一	金原出版	
PT・OT のための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編		才藤栄一	金原出版	
自由記載				
備考				
授業内容や順序は変更する場合があります。その場合は事前に通知します。				

科目名		授業形態	担当教員名	
生活環境学		講義・演習	嘉納 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、日本の住環境の特性を知り、それがADLに与えている影響について考える。また、住環境整備の必要性や効果を知り、具体的な整備方法およびその際の留意点を学習する。また、介護保険における住宅改修についても学習する。				
授業の到達目標				
1. 日本の住環境の特性を説明できる。		5. 介護保険制度について説明できる。		
2. 住環境整備の必要性とその効果を説明できる。				
3. 住環境整備の方法について説明できる。				
4. 事例の住宅改修プランを考えることができる。				
授業計画				
回	内容			
1	住環境整備について			
2	住環境整備（場所別）			
3	住環境整備の実際（事例1）			
4	住環境整備の実際（事例2）			
5	住環境整備の実際（演習1）			
6	〃			
7	住環境整備の実際（演習2）			
8	〃			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	30%	事前・事後課題で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験を100％として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
生活環境学テキスト 改訂第2版		細田多穂 監修	南江堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
OT・PTのための住環境整備論 第2版		野村歡・橋本美芽	三輪書店	
作業療法学全書 改訂第3版 第10巻 福祉用具の使い方・住環境整備		木之瀬隆 編	協同医書	
自由記載				
備考				

科目名		授業形態	担当教員名	
地域作業療法学Ⅰ		講義	岡田 誠暁・大浦 由紀・上原 央 他	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
障がいの有無にかかわらず地域で共に生活していく社会は、リハビリテーション本来の目的です。在宅生活を支える作業療法士へのニーズが高まる中、この授業では地域社会で求められる実践力を身につけることを目指します。そのために、地域作業療法に必要な基礎知識や各種制度について理解を深めます。また、医療から福祉への支援の流れや、地域で暮らす障がい者を支える作業療法士の役割と必要な視点を学びます。				
授業の到達目標				
1. 地域リハビリテーションについての基盤、背景について説明することができる。 2. 地域で生活する障がい者を支援するための制度について説明ができる。 3. 地域の人々の生活・文化・環境等、地域の特性や課題について説明できる。 4. 実践の場に応じた作業療法について説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	地域リハビリテーションの定義と歴史			
2	地域作業療法の役割 地域課題			
3	作業療法士が関わる地域リハビリテーション			
4	地域課題とリハビリテーション①			
5	地域課題とリハビリテーション①			
6	地域課題とリハビリテーション②			
7	地域課題とリハビリテーション②			
8	通所系作業療法（小児領域）			
9	通所系作業療法（小児領域）			
10	訪問系作業療法（高齢者領域）			
11	訪問系作業療法（高齢者領域）			
12	司法・行政領域における作業療法			
13	司法・行政領域における作業療法			
14	海外における作業療法			
15	海外における作業療法			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	80%	課題レポートの内容で評価をする。提出期限は厳守する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	20%	グループワーク時の課題内容・参加態度にて評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は実施しない。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 第4版		山口昇 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
老年期の作業療法		浅海奈津美	三輪書店	
よくわかる社会福祉		山縣文治	ミネルヴァ書房	
自由記載				
備考				
在宅生活を支えるサービスに興味を抱いて欲しい。				

科目名		授業形態	担当教員名	
地域作業療法学Ⅱ		演習・講義	嘉納 綾・岡田 誠暁・猪川 俊博	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
地域で生活する障がい者を支えるために必要な地域作業療法の知識や各種制度、医療から福祉への支援の流れや作業療法士の役割について理解を深める。地域リハビリテーションにおける社会資源の活用の方法を学び、作業療法プログラムの作成方法、実際の支援のあり方について具体的な事例を通して学ぶ。				
授業の到達目標				
1. 地域で暮らす障害者の心身機能だけでなく個人・環境因子など広い視野で評価し、その人が望む生活を送ることができるようにするためのアプローチ方法を具体的に述べることができる。 2. 地域で生活する障害者を支援するための制度について具体的に説明し活用ができる。 3. 生活行為向上マネジメントシートを使用し、模擬事例の評価とプランニングが行える。 4. 集団を利用することの目的と効果を説明できる。 5. 集団訓練のプランニングと運営ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	生活行為向上マネジメント概論【嘉納】			
2	生活行為向上マネジメント演習①：事例①生活行為アセスメント演習シートの作成【嘉納】			
3	生活行為向上マネジメント演習②：事例①生活行為向上プラン演習シートの作成【嘉納】			
4	生活行為向上マネジメント演習③：事例②生活行為アセスメント演習シートの作成【嘉納】			
5	生活行為向上マネジメント演習④：事例②生活行為向上プラン演習シートの作成【嘉納】			
6	生活行為向上マネジメント発表【嘉納】			
7	生活行為向上マネジメントまとめ【嘉納】			
8	精神障害領域の就労支援【猪川】			
9	精神障害領域の就労支援【猪川】			
10	精神障害領域の就労支援【猪川】			
11	精神障害領域の就労支援【猪川】			
12	事例検討（高齢者）【岡田】			
13	事例検討（高齢者）【岡田】			
14	集団訓練【岡田】			
15	集団訓練【岡田】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	課題レポートの内容で評価をする。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	50%	MTDLP演習シートの内容および発表で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は実施しない。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
作業療法マニュアル75 生活行為向上マネジメント改訂第4版	日本作業療法士協会		日本作業療法士協会	
よくわかる社会福祉	山縣文治		ミネルヴァ書房	
自由記載				
備考				
地域における精神障害の就労支援や、高齢者の在宅生活を支えるサービスに興味を抱いて欲しい。				

科目名		授業形態	担当教員名	
職業関連活動		講義	嘉納 綾・中田 修・大谷 将之 小川 美幸・笹井 久嗣・角谷 哲生	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、人にとって働くということにどのような意味があるかを知り、職業リハビリテーションの概念および理論を学ぶ。また、就労支援者に必要な態度・価値観、就労支援に必要な基礎知識・技術等とともに関連制度やサービス等の社会資源について学び、作業療法士が就労支援で担うべき役割について理解する。				
授業の到達目標				
1. 人にとって働くことにはどのような意味があるか、説明できる 2. 就労支援に必要な支援者が持つべき概念、価値観を説明できる 3. 就労支援における作業療法士の役割を説明できる 4. 就労支援で用いる検査法を列挙し、説明できる 5. 就労支援関連法規と制度を説明できる 6. 障害者就労支援における我が国の現状と課題を説明できる 7. 個別の疾患の特徴と就労支援の方法や課題を関連づけて説明できる				
授業計画				
回	内容			
1	職業関連活動とは 働くとは 求人票の見かた【嘉納】			
2	働く意味を考える【嘉納】			
3	「働く」について考える①日本の雇用の現状【嘉納】			
4	発表①日本の雇用の現状【嘉納】			
5	「働く」について考える②病気・障害のある方の雇用について【嘉納】			
6	発表②病気・障害のある方の雇用について【嘉納】			
7	職業リハビリテーションとは 障害者の就労について【嘉納】			
8	障害者の就労制度 就労支援技術【嘉納】			
9	職業評価の方法と実際【嘉納】			
10	障害別就労支援の実際：高次脳機能障害【中田】			
11	障害別就労支援の実際：知的障害【笹井】			
12	就労支援における作業療法士の役割について【大谷】			
13	知的障害者の就労について（親の立場から）【小川】			
14	重度心身障害者の就労について（支援学校の立場から）【角谷】			
15	まとめ【嘉納】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%	到達目標の達成度で評価する。		
レポート・課題	34%	レポート30%、振り返りシート4%で評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	16%	講義前の課題6%、発表10%で評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験を100%として成績判定する。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
標準作業療法学 作業療法評価学 第4版		能登真一 他編	医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				

科目名		授業形態	担当教員名	
臨床評価実習		実習	嘉納 綾・岡田 誠暁 山本 翔太・井上 直樹・大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
135 時間 （ 3 単位）		回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
臨床評価実習では、臨床教育指導者の指導・監督のもとで、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、作業療法士としての①倫理観や基本的態度を身につける、②許容される臨床技能を実践できる、③臨床教育指導者が情報をどのように捉え、作業療法目標を設定し、作業療法プログラムを実施しているかを理解する。そして何より対象者に寄り添い、対象者の思いを理解できることを目指す。				
授業の到達目標				
1. 職業人としての常識的態度を身につける。 2. 責任ある行動を身につける。 3. 自己管理ができる。 4. 意欲的に取り組む姿勢(探求心・創造性)を身につける。 5. 臨床教育指導者の指導・監督のもとで、情報収集・面接・観察・検査測定ができる。 6. 臨床教育指導者の作業療法の臨床思考過程を説明できる。 7. 管理および運営の補助ができる。				
授業計画				
回	内容			
	オリエンテーション			
	評価実習			
	実習期間：令和9年1月18日～2月6日（1日8時間×15日間）			
	実習施設：病院、老人保健施設など学校が依頼し決定した施設			
	実習形態：同一施設で臨床教育指導者の指導・監督のもと作業療法評価過程を経験する			
	詳細については、オリエンテーション時に伝える			
	実習セミナーⅠ			
	1人の対象者に関して実習で得られた情報を、担当教員の指導のもとまとめる			
	実習セミナーⅡ			
	実習セミナーⅠでまとめた対象者について発表する			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題				
小テスト				
その他	100%	実習内容、実習セミナーで総合的に評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
令和8年度臨床評価実習の手引き（神戸総合医療専門学校 作業療法士科）				
自由記載				
備考				
実習は対象者や関係者、実習施設の好意により行われるため、感謝と礼儀を忘れないこと。日頃から健康管理につとめ、特に実習期間は健康に留意すること。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎・B型肝炎の抗体値が基準を満たしていることと、インフルエンザワクチンを接種していることが、実習に参加する条件である。				

科目名		授業形態	担当教員名	
作業療法特論Ⅳ		演習	大永 寛	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間 （ 1 単位）		8 回	2 年次	後期
授業の目的・概要				
この講義では、評価実習や臨床実習で必要とされる、①エビデンスに基づいた作業療法介入②対象者の人生を幅広く捉えるために必要な視点や考え方、の2つを習得することを目指す。これら2つの視点が欠けていると、対象者目線での作業療法を提供することはできない。「対象者に寄り添い、その人らしい生活を支えること」とは一体どのようなことなのか、この講義を通して考えを深め、理解してほしい。				
授業の到達目標				
1. 文献を活用する重要性がわかる。 2. 文献の探し方がわかる。 3. 文献の活用方法がわかる。 4. 臨床現場で作業療法学生が陥りやすい思考の偏りについて言語化できる。 5. 自分の考えや知識を他者にわかりやすく伝えることができる。 6. 順序だてた計画を立てることができる。 7. 結果を客観的かつ論理的に分析することができる。 8. 自分の成長を報告することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション			
2	文献抄読とエビデンス① （文献を活用する意義・文献の探し方）			
3	文献抄読とエビデンス② （主張を支持する文献を探し、まとめる）			
4	文献抄読とエビデンス③ （主張を支持する文献のレビューを発表する）			
5	ケーススタディ① （架空の対象者情報から批判的吟味を行い、情報を整理する）			
6	評価実習にむけて			
7	ケーススタディ② （架空の対象者情報から批判的吟味を行い、整理した情報の評価手段を考える）			
8	ケーススタディ③ （架空の対象者情報から統合と解釈を作成する）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	50%	授業中に提示する課題の提出状況および内容で評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	50%	ポートフォリオ面接にて評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載	再試験は筆記試験を行う。評価方法の割合は、ポートフォリオ面接40%、筆記試験60%である。			
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
特に指定しない				
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
自由記載				
備考				
授業内容や順番は変更する可能性がある。その際は口頭および書面にて通知します。 臨床現場に立つ作業療法学生として、ふさわしい行動や態度で臨んでください。				